



読書は体にとっての運動  
と同様の効果を精神にも  
たらす(アディソン=英国の  
エッセイスト)

## 『子ども読書活動推進計画』

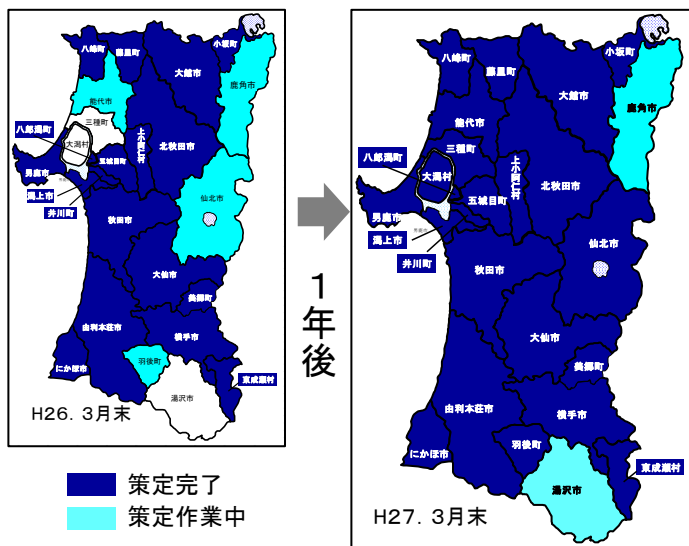
### 来年度末までに全ての市町村が策定完了へ

県内市町村における『子ども読書活動推進計画』の策定状況は、平成25年度末では、策定済みが18市町村でしたが、平成26年度末の見込みでは、策定済みが23市町村、策定作業中が2市となり、平成27年度末には、県内全ての市町村において策定される予定となっています。この計画は、市町村が主体的に読書活動を推進するための拠り所となるもので、「子どもの読書活動の推進に関する法律」において、各市町村が策定することになっています。

また、この法律では、「子ども読書の日」の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めることとしており、来年度も、全市町村が図書館や学校での取組を予定しています。「本のなかにもおともだち」というキャッチコピーのポスターが間もなく配付されますので、啓発活動にご活用ください。



来年度のポスター



「子ども読書の日」(4月23日)に関する取組実施予定数

年度	22年	23年	24年	25年	26年
実施する市町村数	20	23	24	25	25
件数	84	124	168	174	150

## 生涯学習奨励員地区連絡協議会研究大会

### 講話&ビブリオバトル

1月30日(金)、三種町琴丘地域拠点センターで、能代市山本郡生涯学習奨励員の地区連絡協議会研究大会が開催され、講話による研修と実践交流が行われました。

午前の講話は、「グループかぜ」代表の谷京子氏が講師を務めました。『黒グルミのからのなかに』『百羽のツル』『いのちをいただく』『ハナミズキのみち』の絵本が、情感たっぷりにBGM付きで読み聞かせられると、感動のあまり涙を抑えきれない参加者たちもたくさんいました。また、谷氏は、読み聞かせる際に気を付けていることや子どもの反応のとらえ方、訪問先でのエピソード、同じ志をもった仲間たちの話などをちりばめながら、「大人が子どもたちに読んであげるといことは、自分が読んで感動を伝えること。」と語りました。



小グループで決まったチャンプ本を集めて決勝戦を行いました

午後からは、好きな本を持ち寄って紹介し合い、一番読みたくなった本を投票で決めるビブリオバトルが行われました。まず、4グループに分かれて各グループのチャンプ本を決定し、最後に決勝戦を行いました。本の紹介だけに留まらず、「介護」「孫とのつきあい方」「生き甲斐」などについて豊かな人生経験を語る場となりました。参加者たちは一様に「おもしろかった。」と話していました。

チャンプ 『邂逅の森』著・熊谷 達也  
『聞く力ー心をひらく35のヒント』著・阿川 佐和子  
『くじけないで』著・柴田 トヨ  
『明日はわが身、ボケるが勝ち』著・小熊 均

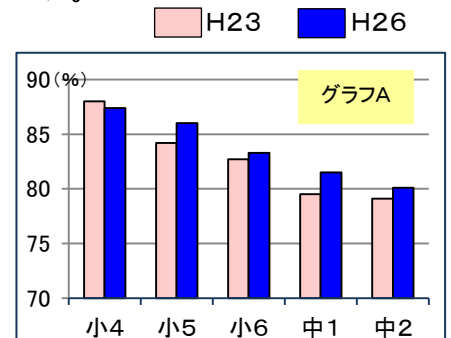
# 読書は好きだけれど、図書館はあまり利用しないなあ・・・

## 県学習状況調査結果から見える児童生徒の読書の姿

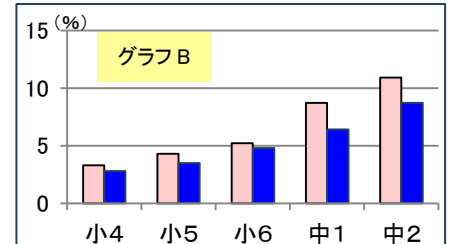
秋田県教育委員会は、毎年、小学校4年生から中学校2年生までを対象に学習状況調査を行っています。今年度実施した読書についての調査結果を、平成23年度と比較してみました。

まず、「読書は好きだ」ということを「つよくそう思う」「そう思う」と回答した児童生徒は、グラフAのようになります。

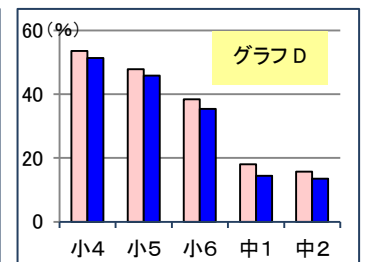
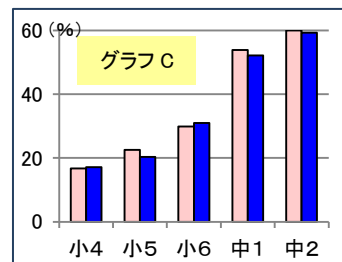
学年が進むにつれて数値は下がりますが、8割以上が「読書は好きだ」という意識をもっています。また、ほとんどの学年で今年度の方が上回っています。各学校や地域の図書館、家庭等の読書環境が整備され、読書に親しむ機会が増えてきた効果とも言えます。同様に、4月の全国学力・学習状況調査でも、小6、中3の回答は全国平均を大きく上回っており、「秋田の子どもたちは読書好き」であることが言えます。



また、「1か月に何冊くらい本を読むか」の質問に、0冊と回答した児童生徒を比較したグラフBを見ても、本を読まない子どもたちが減ってきたということがわかります。「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(H25.5)では、不読率について「おおむね5年後に小学生は3%以下、中学生は12%以下を目指す」としています。



ところが、「1か月に何回図書館を利用するか」という質問に対して、「0」と回答したグラフC、「3回以上」のグラフDを見ると、図書館の利用は芳しくありません。魅力的な図書館環境づくりをより一層進めるとともに、図書館を使った授業やイベント等による利用のきっかけとなる取組も大切です。



## 平成26年度 高等学校図書館報コンクール 審査結果

今年度も、各高等学校で発行した図書館報のコンクールが行われ、各賞が決定しました。高等学校の発行する図書館報とは、図書委員会等の生徒たちや担当職員の手によって作られた、学校図書館の活動をまとめた広報紙です。

審査員たちは、「タイムリーな題材をトップ記事で扱っている。」「読みやすいレイアウトの工夫が

見られる。」「図書館利用への提言や読書の意義などを深く掘り下げている。」「話題に広がりがあり読み応えがある。」などの感想を述べていました。

応募のあった図書館報を2月16日から28日まで県立図書館のエントランスホールで展示したところ、来館したたくさんの方々が足を止めて見入っていました。

- 【最優秀賞】大館国際情報学院高等学校
- 【優秀賞】大曲高等学校
- 【読書推進賞】秋田西高等学校、秋田南高等学校
- 【委員会活動賞】六郷高等学校
- 【図書館運営賞】湯沢翔北高等学校
- 【企画賞】能代西高等学校、秋田中央高等学校
- 【努力賞】能代松陽高等学校、由利工業高等学校
- 【奨励賞】二ツ井高等学校、能代高等学校  
新屋高等学校、秋田商業高等学校  
本荘高等学校、大曲工業高等学校  
羽後高等学校



県立図書館エントランスホールでの展示

秋田県教育庁生涯学習課  
生涯学習・読書推進班



URL <http://www.pref.akita.lg.jp/syogaku/>